

事業名称	はらい 祓川水系伊良原ダム建設事業
事業種類	河川（ダム）
実施根拠	環境影響評価法、福岡県条例
手続	平成 17 年 3 月～4 月 環境影響評価書縦覧
所在地	福岡県
事業主体	福岡県

背景

はらい 祓川は急流のため、古くからたびたび洪水を起こしてきた。その一方で、渇水による水不足もしばしば起こしている。そこで、洪水調節、既得用水の安定化、水道用水を目的として、祓川の上流に重力式コンクリートダムが計画された。

ダム建設にあたっては、環境影響評価法の対象事業として環境影響評価が行われた後、工事中の様々な環境保全措置が実施されている。

環境保全措置の内容

【水質】

○工事中の濁水対策

工事区域から発生する土砂により河川の水が濁るので、工事面積の広い場所の近くに沈砂池を設置して、濁りを落としてから河川へ流すようにした。このほか、沈砂池が設置できない狭い場所でも、法面にブルーシートを被せたり、平場に木材チップを散布したり、仮設の沈砂池を設置して、濁水の発生を抑制する対策をとった。



土砂により濁った水を一旦、沈砂池に溜めて、

濁りを落としてから河川へ流します

沈砂池の設置（福岡県HP）



ブルーシートの展張

法面にはブルーシート、平場には木材チップを散布して、濁水の発生を抑制しています。



仮設沈砂池の設置

仮設沈砂池を設置して、濁水を直接河川へ流さないように工夫しています。

(福岡県HP)

【動植物】

○コキクガシラコウモリのねぐらの整備

ダム堤体や貯水池ができることにより、コキクガシラコウモリの生息場所（現生息横坑）が消失するため、保全措置として代替となる生息場所（代替横坑）をつくった。代替横坑をつくる前には、現生息横坑の温度や湿度を調べ、その環境を再現するような形状に近づけた。



コウモリの代替横坑入口（福岡県HP）

○アオバズクの巣箱設置

広葉樹の樹洞に巣をつくるアオバズクは、営巣している広葉樹林が伐採されると、繁殖が困難になることが予想された。そのため、平成19年度までに伊良原地域の5地区に計15個の巣箱を設置した。

なお、巣箱は専門家が設計し、地元の小学生が作成した。



アオバズクの巣箱（福岡県HP）

【生態系】

○ホンドキツネへの配慮

4・5月の調査で、ホンドキツネの痕跡が多かった地域では、7月までの調査を重点的に行うとともに、工事の騒音を抑制し、工事関係者への教育・周知を行うなどの配慮を実施した。

○サシバの繁殖への配慮

平成22年度の工事区域の近くにはサシバが1つがい営巣していた。そこで、繁殖期間中の4～7月に、近くで立木伐採を行わない、騒音を抑制するなどの配慮を実施した。

○植物の種子と表土の利用

工事区域の植物の種子やそれらが生育している箇所近傍の表土を利用して、屋外でその植物が育つかどうか確認を行った。実験対象の植物は福岡県レッドデータブックで絶滅のおそれがあるとされているマルバノホロシとルリミノキで、現在、順調に生育している。

モニタリング調査結果

【水質】

沈砂池に貯留し濁りを落としした後に排出している水の排出回数は計21回で、その排出水のSS（懸濁物質）は全て監視基準50mg/ℓ を下回っていた。

また、降雨が多いときに沈砂池からあふれ出る水の流出回数は計14回で、流出水のSSは全て監視基準1,200mg/ℓ を下回っていた。

【動植物】

○コキクガシラコウモリ

平成22年3月までに、コキクガシラコウモリによる代替横坑の利用はなかった。ただし、代替横坑では平成20年10月、平成21年4・6月、平成22年9月にコキクガシラコウモリが確認された。今後のコキクガシラコウモリの利用も期待されている。

○アオバズク

アオバズクは今のところ巣箱を利用していないが、これまでの営巣地で平成22年度も繁殖していた。

【生態系】

○ホンドキツネ

ホンドキツネの痕跡は例年と同じ地域で見られ、繁殖期の冬季における利用範囲にも変化はなかった。

○サシバ

サシバの分布状況に変化はなく、平成22年度も幼鳥を確認し、つがいの繁殖が成功した。

引用文献

①福岡県ホームページ

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d13/kankyou.html>